



2021年3月期 決算説明会資料

2021年6月3日

証券コード：4022

目 次

- 1. 事業概要**
- 2. 2021年3月期実績及び2022年3月期見通し**
- 3. 新中期経営計画**

1. 事業概要

事業概要

会社概要

商号	ラサ工業株式会社
本社	東京都千代田区外神田一丁目18番13号
創業	1913（大正2）年 5月 1日
設立	1918（大正7）年 6月 26日
従業員数	584名（連結）

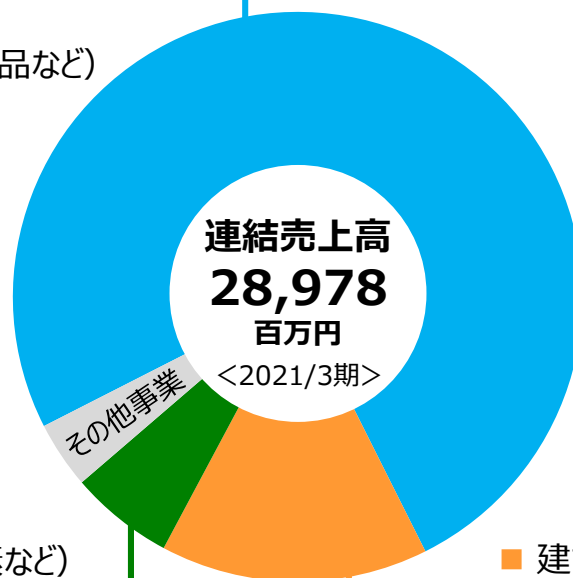
<2021年3月31日現在>

化成品事業 21,750百万円／75.1%

- リン系製品
リン酸（一般品、電子工業向け高純度品など）
リン酸塩など
- 凝集剤（水処理用など）
- その他（コンデンサー向け原料、
消臭剤など）

- 化合物半導体向け高純度無機素材
（ガリウム、インジウム、赤リン、酸化ホウ素など）
- 放射性ヨウ素吸着剤

電子材料事業 1,706百万円／5.9%



- 建設機械（破碎機、選別機、粉体機器）
- 土木機械（掘進機（上下水道向け））

機械事業 4,409百万円／15.2%



<半導体向け高純度リン酸の製造体制>

2. 2021年3月期実績及び2022年3月期見通し

2021年3月期 決算概要

- 売上高は、化成品事業における半導体向けが好調、しかしながら機械事業における新型コロナウイルスに伴う営業活動自粛の影響や大型プラントの減少もあり、減収。
- 営業利益は、電子関連市況の回復、在庫評価の益要因などもあったことにより、増益。

(単位：百万円)

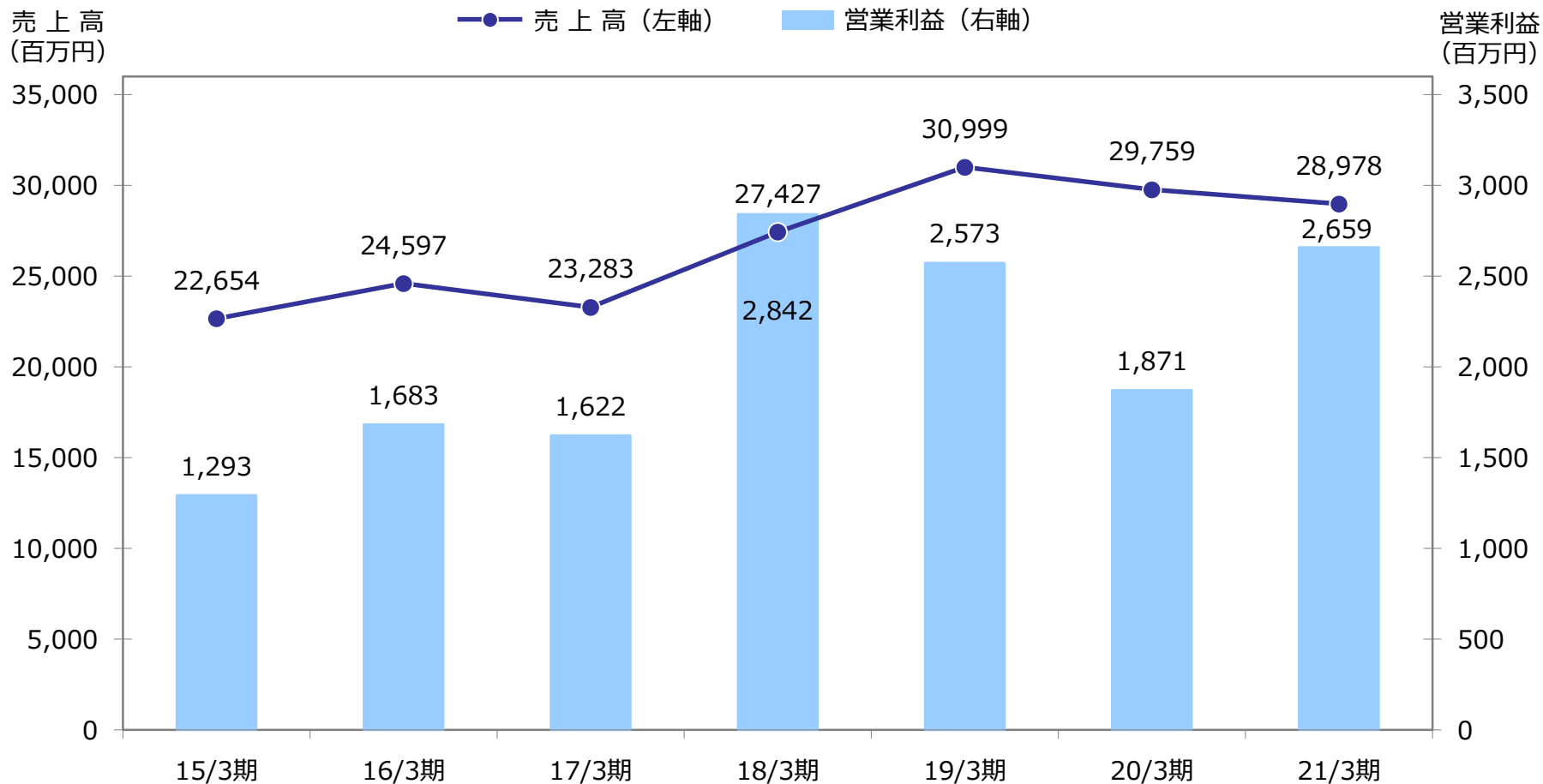
	2020/3期	2021/3期	増減	前年同期比	業績予想	増減
売 上 高	29,759	28,978	△ 781	△ 2.6%	29,400	△ 422
営 業 利 益	1,871	2,659	788	42.1%	2,100	559
経 常 利 益	1,726	2,649	923	53.5%	2,100	549
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	1,377	2,004	627	45.5%	1,500	504
1 株 配 当 金	40.00円	45.00円	5.00円	—	40.00円	5.00円

(減価償却費) 1,441 1,487 46 3.2%

(在庫評価) △ 206 269 475 —

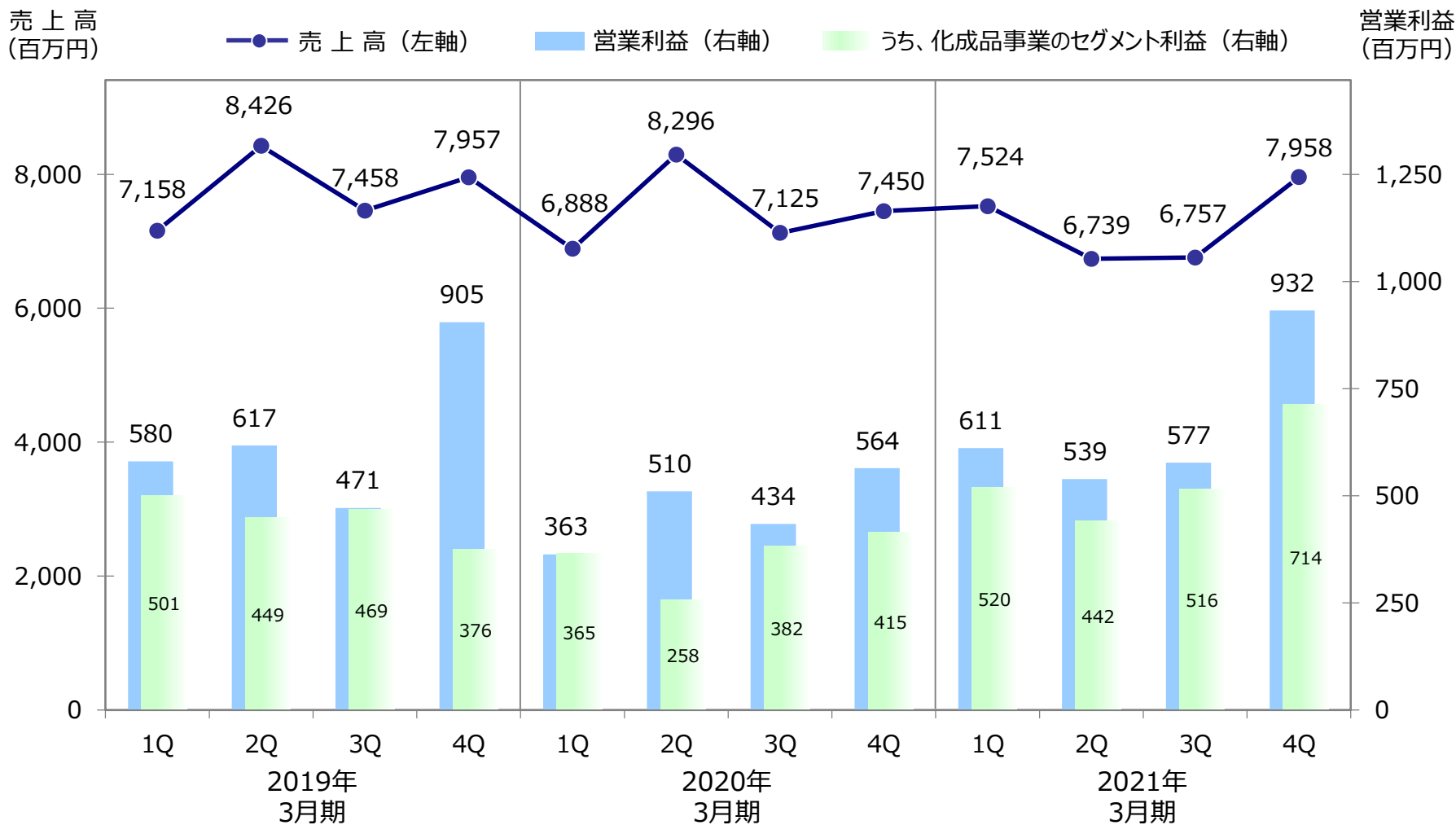
年度業績の推移

売上高と営業利益の推移



四半期業績の推移

四半期売上高と営業利益の推移



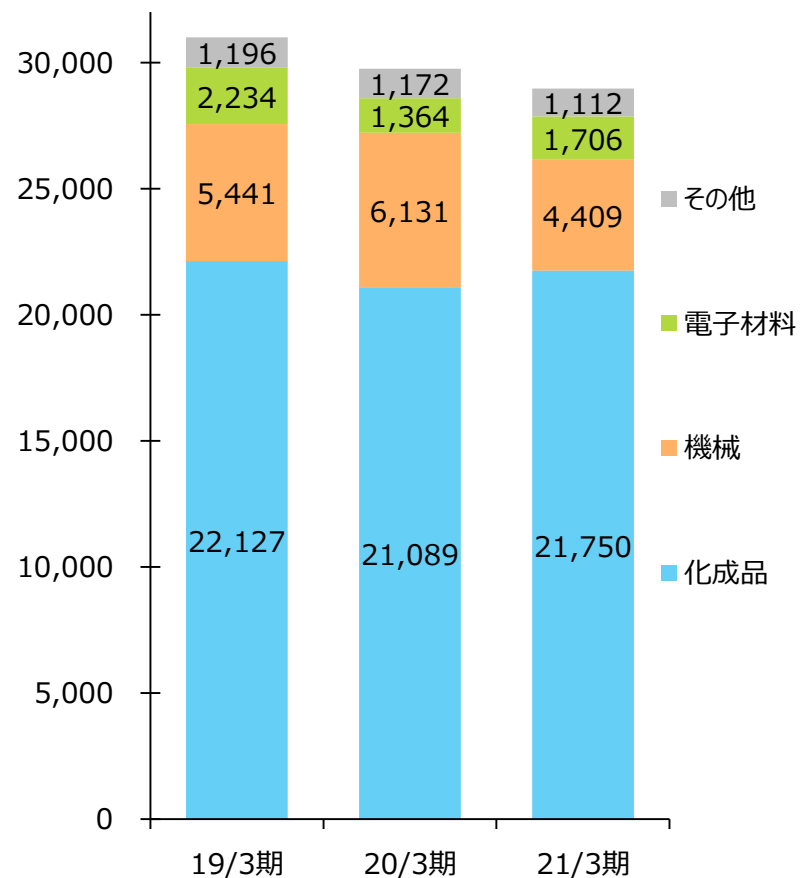
2021年3月期 セグメント別概要（売上高）

売上高の推移

（単位：百万円）

	2020/3期	2021/3期	増減	前年 同期比
化 成 品	21,089	21,750	661	3.1%
機 械	6,131	4,409	△ 1,722	△ 28.1%
電 子 材 料	1,364	1,706	342	25.0%
そ の 他	1,172	1,112	△ 60	△ 5.2%
合 計	29,759	28,978	△ 781	△ 2.6%

（百万円）

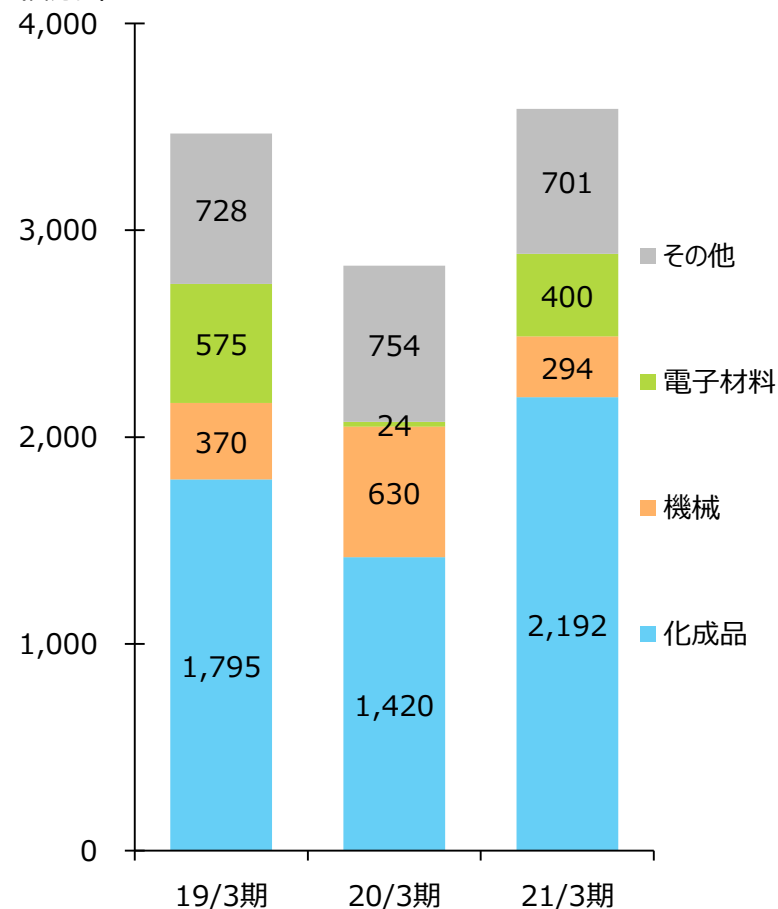


2021年3月期 セグメント別概要（利益）

セグメント利益の推移

	2020/3期	2021/3期	増減	前年 同期比
化 成 品	1,420	2,192	772	54.3%
機 械	630	294	△ 336	△ 53.3%
電 子 材 料	24	400	376	1,568.4%
そ の 他	754	701	△ 53	△ 7.0%
（ 調 整 額 ）	△ 957	△ 930	27	—
合 計	1,871	2,659	788	42.1%

(百万円)



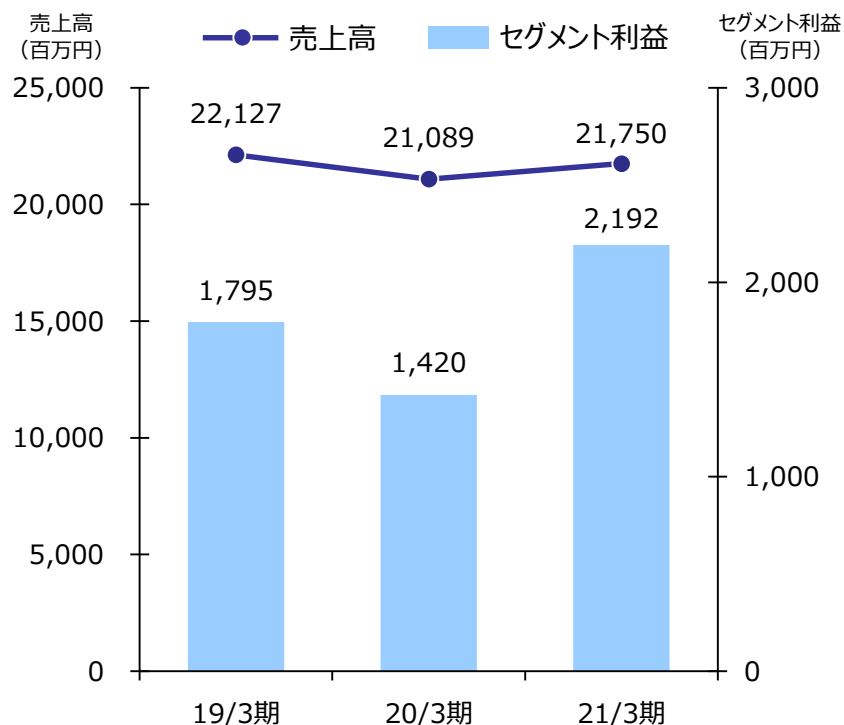
(在庫評価)

化 成 品	△ 48	41	89	—
電 子 材 料	△ 151	233	384	—

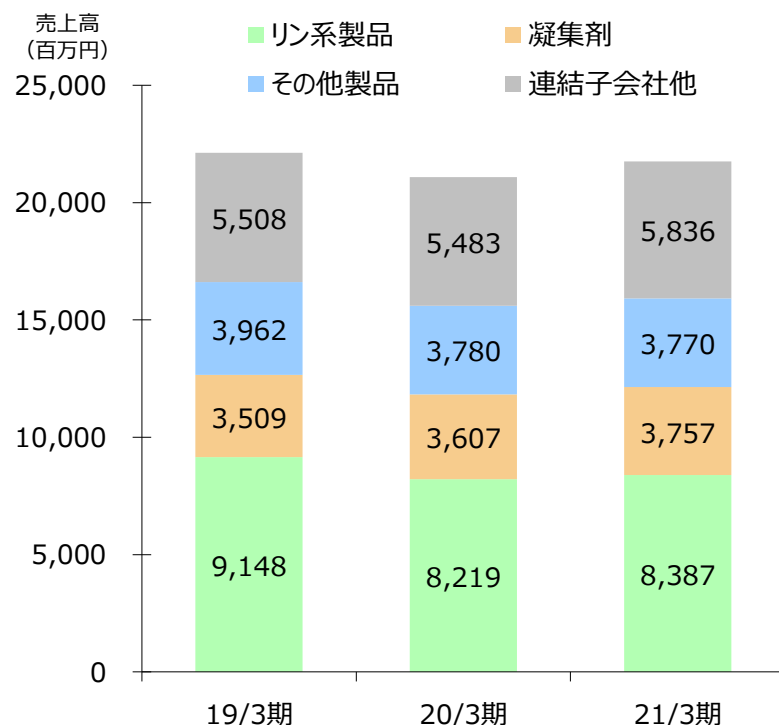
化成品事業

- リン系製品は、電子工業用高純度品が、国内外の半導体向けに増収（連結子会社分を含む）。
- 凝集剤は、上水道向け製品が堅調に推移し、エッチング用途向けが秋口から回復したことなどから増収。
- その他製品は、コンデンサー向け原料は顧客の在庫調整もあり減収となったが、その他製品全体としては前年並み。

【化成品事業】 売上高とセグメント利益の推移

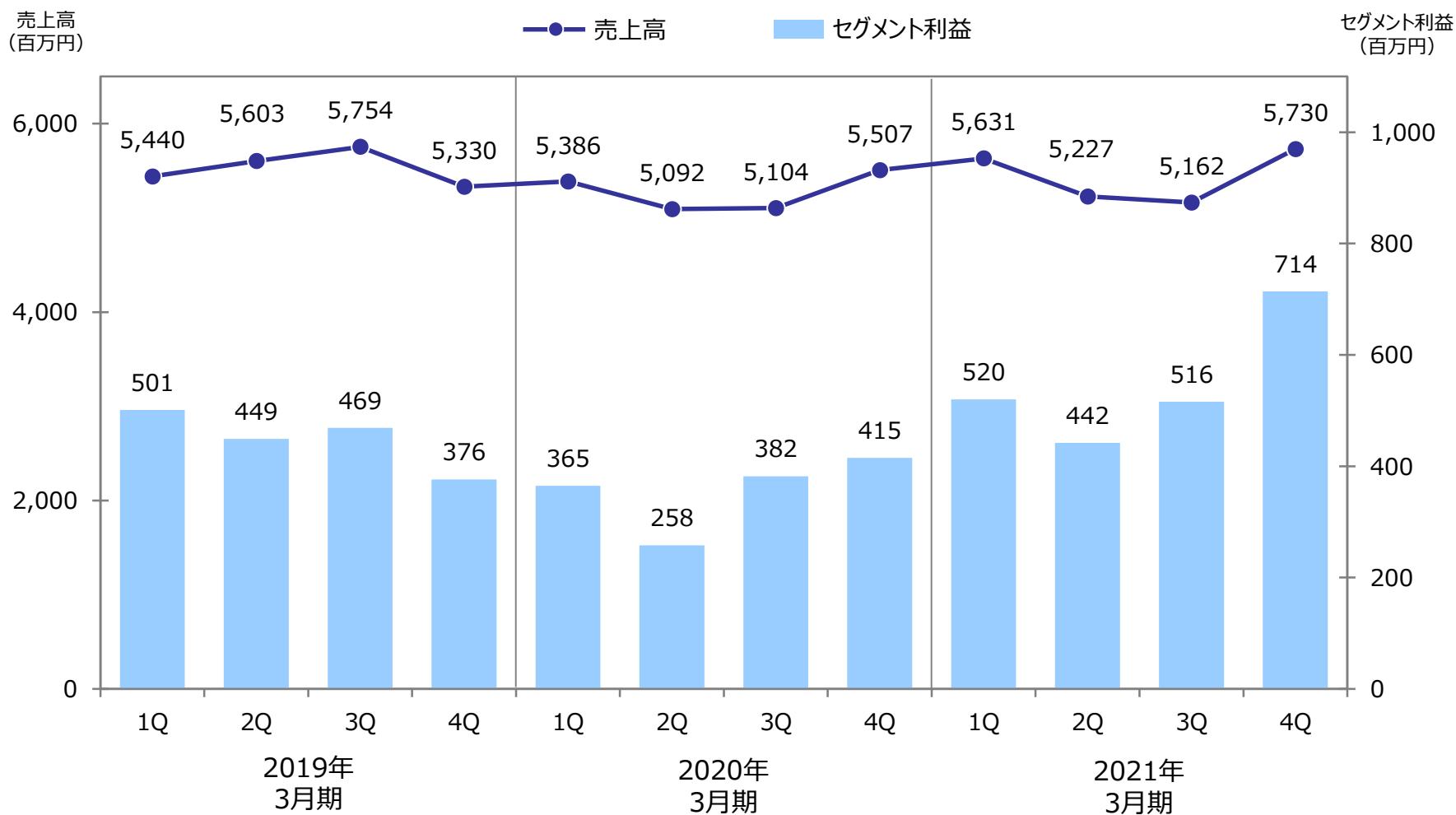


【化成品事業】 製品別売上高の推移



化成品事業（四半期業績）

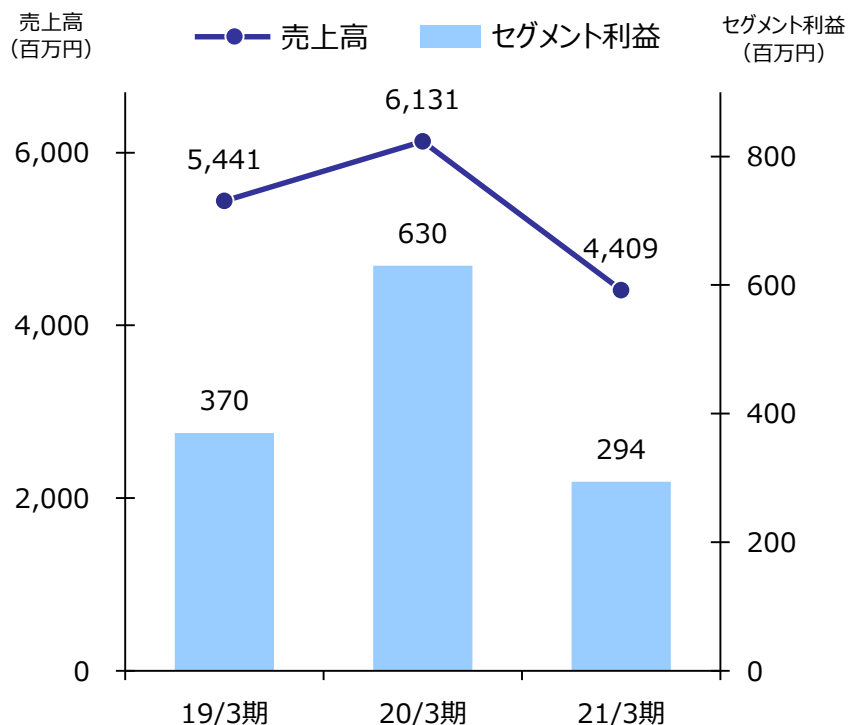
【化成品事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



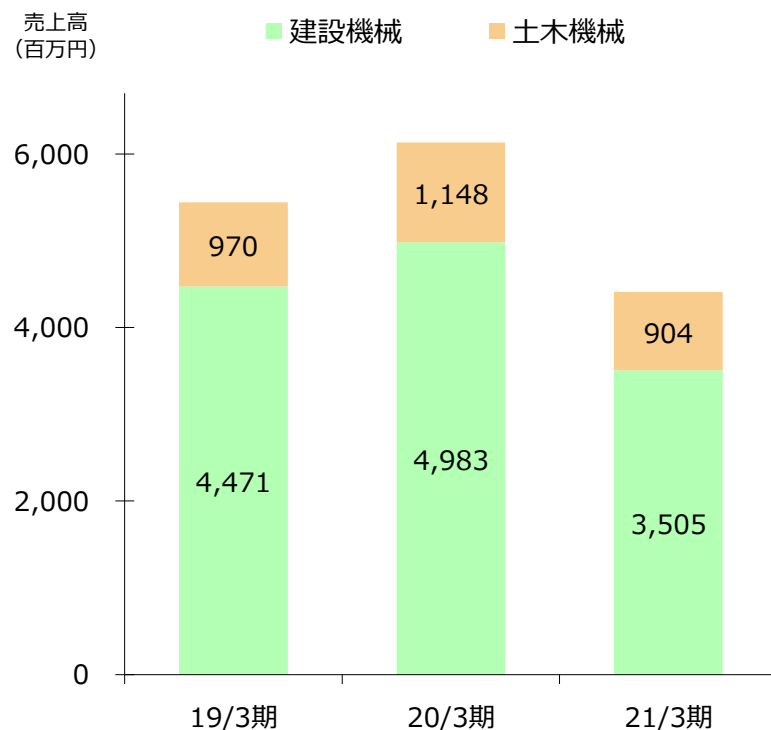
機械事業

- 建設機械は、営業活動の自粛の影響を受け、低調に推移、特に大型プラント減少により大幅な減収。
- 土木機械は、掘進機の国内向け本体販売は増収となったが、海外向け本体販売が減収。

【機械事業】 売上高とセグメント利益の推移

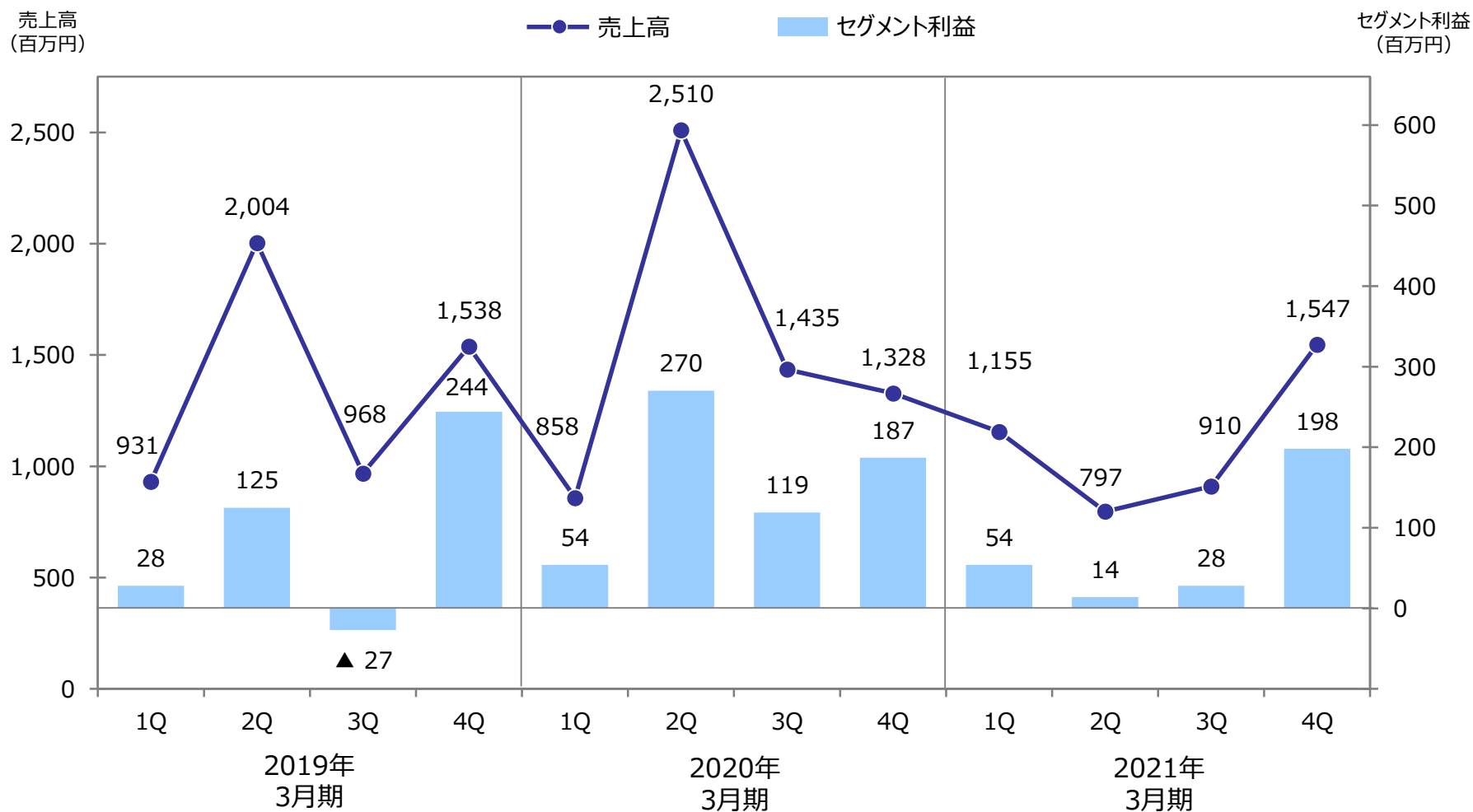


【機械事業】 製品別売上高の推移



機械事業（四半期業績）

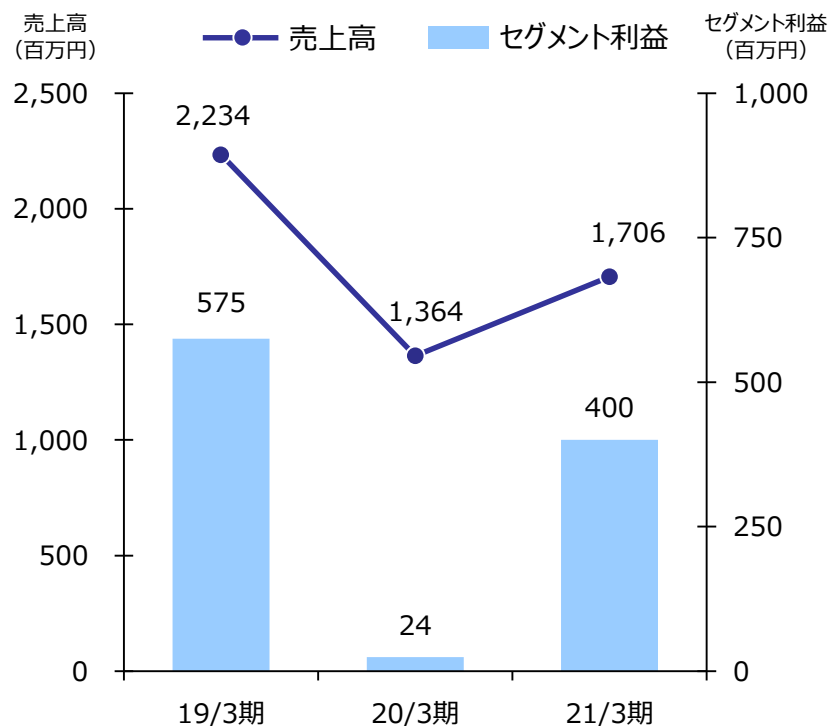
【機械事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



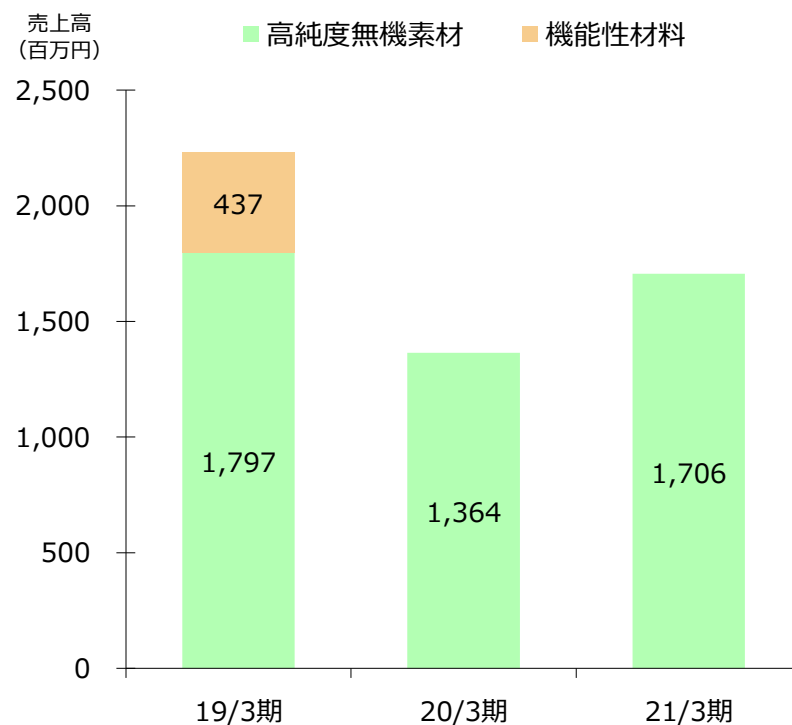
電子材料事業

- 次世代通信インフラ向け等の需要増加を受け、高純度赤燐、ガリウム、インジウムなどが堅調に推移し、増収。
- 売上増に加え、市況の回復による在庫評価の益要因もあり、大幅な増益。

【電子材料事業】 売上高とセグメント利益の推移

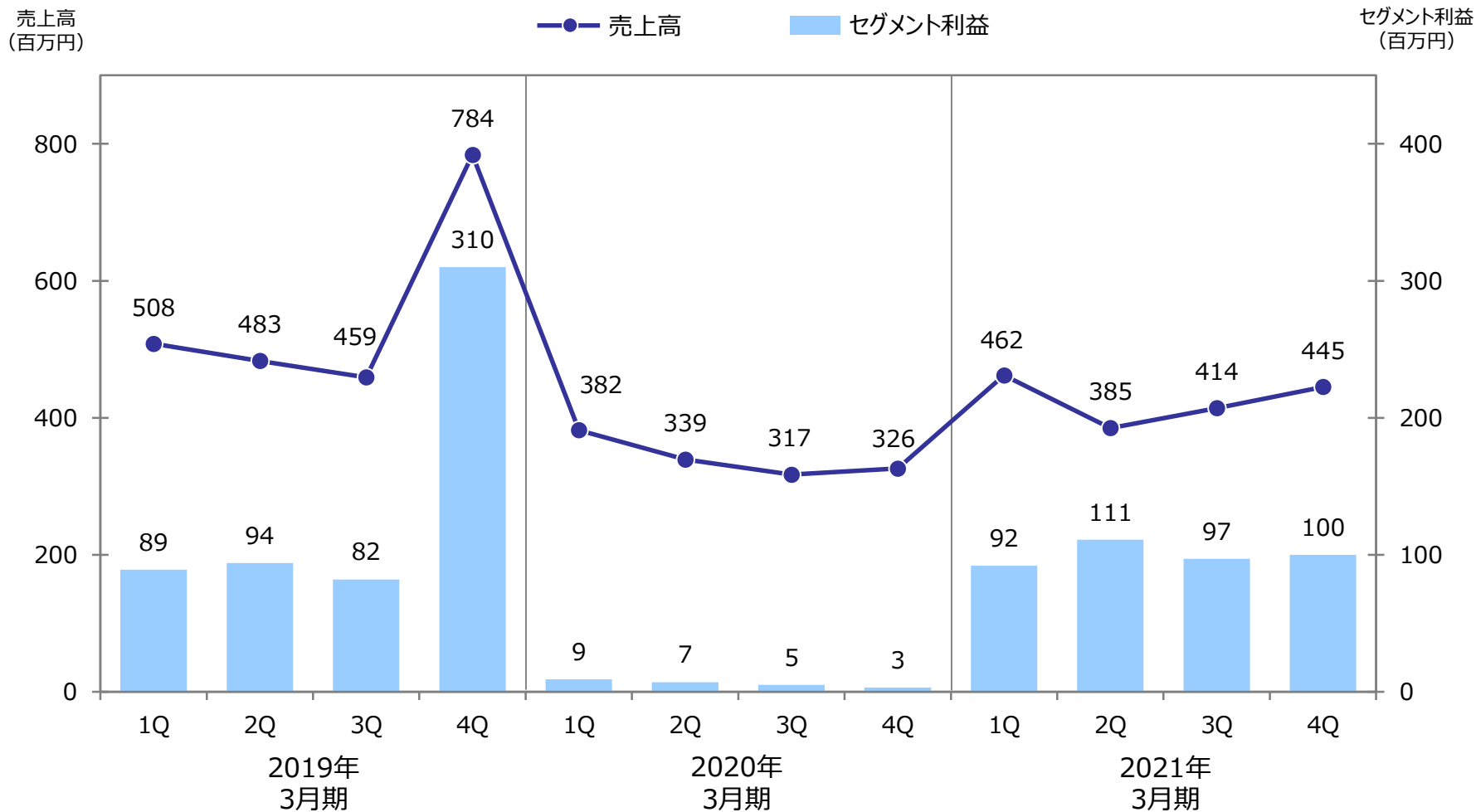


【電子材料事業】 製品別売上高の推移



電子材料事業（四半期業績）

【電子材料事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



損益計算書（連結）

（単位：百万円）

	2020/3期	2021/3期	増減	前年同期比
売上高	29,759	28,978	△ 781	△ 2.6%
売上原価	23,541	22,049	△ 1,492	△ 6.3%
販売費・一般管理費	4,345	4,269	△ 76	△ 1.7%
営業利益	1,871	2,659	788	42.1%
営業外収益	262	377	115	43.9%
営業外費用	408	387	△ 21	△ 5.1%
経常利益	1,726	2,649	923	53.5%
特別利益	232	71	△ 161	△ 69.4%
特別損失	45	58	13	28.9%
税金等調整前当期純利益	1,912	2,662	750	39.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,377	2,004	627	45.5%
（減価償却費）	1,441	1,487	46	3.2%

貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

	2020/3月末	2021/3月末	増減
流動資産 計	16,672	16,024	△ 648
現金及び預金	4,737	3,407	△ 1,329
受取手形及び売掛金	8,159	8,540	380
たな卸資産 ※	3,508	3,900	391
固定資産 計	20,890	20,904	13
有形固定資産	17,651	17,340	△ 311
無形固定資産	37	51	14
投資その他の資産	3,202	3,513	311
流動負債 計	12,064	10,449	△ 1,615
支払手形及び買掛金	3,803	3,483	△ 319
短期借入金	5,333	4,708	△ 624
固定負債 計	9,751	8,757	△ 994
長期借入金	6,257	5,424	△ 832
退職給付に係る負債	3,111	2,943	△ 168
純資産	15,748	17,721	1,973
自己資本	15,695	17,654	1,959
非支配株主持分	53	67	14
総資産	37,563	36,928	△ 635
<自己資本比率>	41.8%	47.8%	+6.0%

※ たな卸資産 = 商品及び製品 + 仕掛品 + 原材料及び貯蔵品

キャッシュ・フロー計算書（連結）

（単位：百万円）

	2020/3期	2021/3期	増減
営業キャッシュ・フロー	2,963	2,367	△ 595
税金等調整前当期純利益	1,912	2,662	750
減価償却費	1,441	1,487	46
売上債権の増減額（△は増加）	477	△ 369	△ 846
たな卸資産の増減額（△は増加）	246	△ 383	△ 629
仕入債務の増減額（△は減少）	△ 321	△ 322	△ 1
法人税等の支払額	△ 382	△ 318	63
投資キャッシュ・フロー	△ 1,407	△ 1,860	△ 452
有形固定資産の取得による支出	△ 1,709	△ 1,742	△ 32
財務キャッシュ・フロー	△ 2,151	△ 1,825	326
借入金の純増減額	△ 1,804	△ 1,473	331
現金及び現金同等物 期中増減額	△ 596	△ 1,329	△ 733
現金及び現金同等物 期末残高	4,737	3,407	△ 1,330

2022年3月期の業績予想

- 前期比増収ながら、減益を見込む。
- 化成品事業は、半導体・電子部品関連製品の販売増により、増収を見込むが、原材料等のコストアップおよび在庫評価益要因の剥落もあり減益を見込む。
- 機械事業は、海外の下水道関連工事の再開に伴う掘進機の海外販売の増加等により、増収増益を見込む。
- 電子材料事業は、ガリウムなどの販売は堅調に推移し前年並みの売上を見込むが、在庫評価益要因の剥落により減益を見込む。

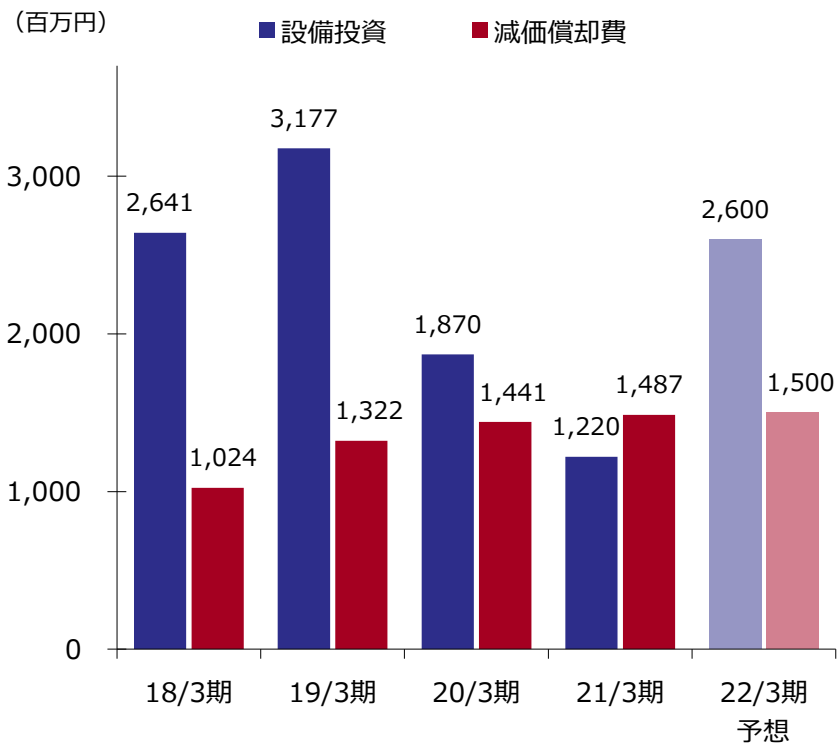
(単位：百万円)

	2021/3期	2022/3期予想	増減	前年同期比
売上高	28,978	30,500	1,522	5.3%
化成品事業	21,750	22,500	750	3.4%
機械事業	4,409	5,200	791	17.9%
電子材料事業	1,706	1,700	△ 6	△ 0.4%
その他の事業	1,112	1,100	△ 12	△ 1.1%
営業利益	2,659	2,300	△ 359	△ 13.5%
化成品事業	2,192	2,050	△ 142	△ 6.5%
機械事業	294	450	156	53.1%
電子材料事業	400	150	△ 250	△ 62.5%
その他の事業	701	650	△ 51	△ 7.3%
全社費用など	△ 930	△ 1,000	△ 70	7.5%
経常利益	2,649	2,300	△ 349	△ 13.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,004	1,700	△ 304	△ 15.2%
1株配当金	45.00円	45.00円	0	0.0%

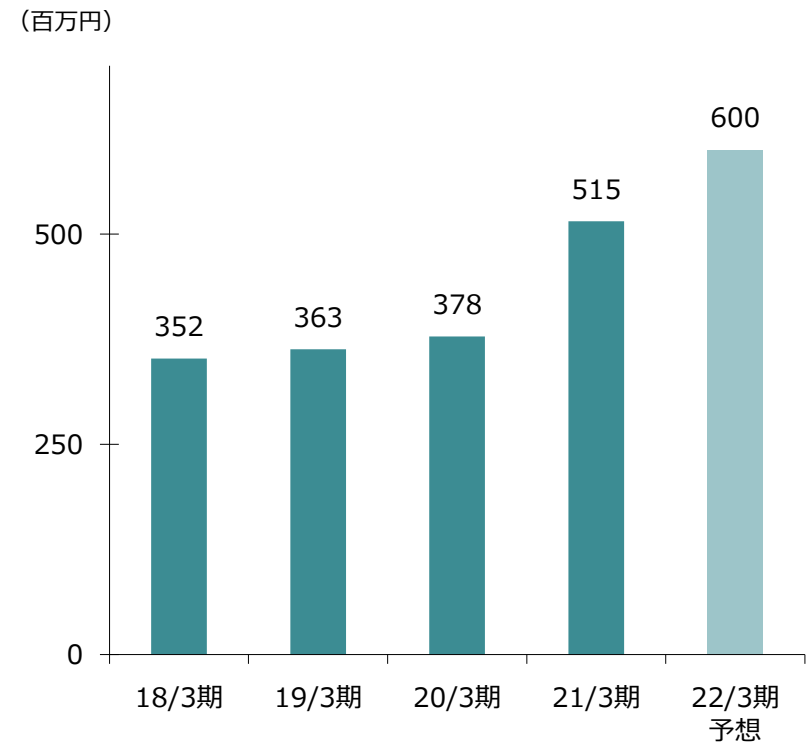
設備投資・減価償却費及び研究開発費の推移

- 設備投資は、主に化成品事業において、台湾子会社で、半導体向け高純度リン酸の製造設備増設を計画（2022年3月期に完工予定）。
- 研究開発費は、主に電子材料事業において、原子力の安全性・信頼性向上のための研究開発（当社製品：放射性ヨウ素吸着剤等の研究開発）を2021年3月期から継続。

設備投資・減価償却費



研究開発費



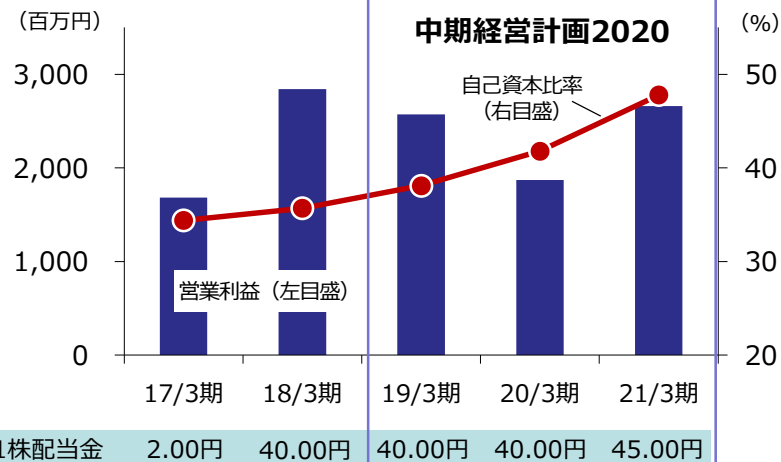
3. 新中期経営計画

前中期経営計画の総括

定量面

	＜目標＞	＜実績＞
1. 連結営業利益	33億円	26.5億円
2. 連結自己資本比率	50%	47.8%
3. 業績に応じた配当の継続		

最終年度は、米中貿易摩擦や新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、売上・利益共に計画比大幅な減少。
自己資本比率は、着実に改善したが（3年間で12ポイントアップ）、利益の計画比大幅な減少に伴い、目標には若干未達。



定性面

成果

- 既存事業の強化・領域拡大
 - ＜化成品＞ 半導体向け高純度リン酸の増産と安定稼働
 - ＜機械＞ 震災復興関連向け部品の計画以上の受注
- グローバル化への対応強化
 - ＜化成品＞ 台湾子会社－半導体向け高純度リン酸の需要拡大への対応、設備増設の決定
- 新規事業への注力
 - ＜電材＞ 塗布剤の新規顧客獲得
 - ＜機械＞ バイオマス熱利用装置のモデル拠点の獲得

残課題

- 化成品：コンデンサー向け原料の安定操業と消臭剤の拡販
- 機 械：土木機械・粉体向けの海外、新規市場開拓
- 電 材：高純度無機素材の収益改善
放射性ヨウ素吸着剤(AgX)の海外向け販売実現

中期経営計画2023（2021～2023年度）の概要

中期経営計画2023

～「次世代への変化に対応した事業戦略の推進と
将来に向けた事業基盤の更なる強化」を目指す～

目 標

1. 連結営業利益 33億円
2. 連結自己資本比率 55%
3. 業績に応じた配当の継続

事業戦略

- 既存事業の強化・領域拡大
- グローバル市場への対応強化
- 新規事業の探索・育成
- 財務体質の更なる強化

中期経営計画2023の事業戦略

【全社方針】

【施策】

既存事業の強化・領域拡大

- 5G・IoT・AI分野需要の着実な取り込み
- 既存事業の中長期ビジョンを踏まえた方針の明確化と実行
- 設備投資の着実な実行と投資回収
- 設備維持保全・安定供給力の向上

グローバル市場への対応強化

- サプライチェーンの分散化への機敏な対応
- 原料調達及びデリバリーの安定確保の強化
- ポストコロナ社会における海外営業スタイルの見直し

新規事業の探索・育成

- 製品開発と営業の連携強化
- ユーザー拡大と高付加価値化

基盤整備

管理体制

- ✓ DXへの取り組み
- ✓ 柔軟かつ機敏な組織体制づくり
- ✓ ESGへの取り組み

人材戦略

- ✓ 多様な人材の育成と採用力強化
- ✓ 変革に対応した人材の再配置・再教育

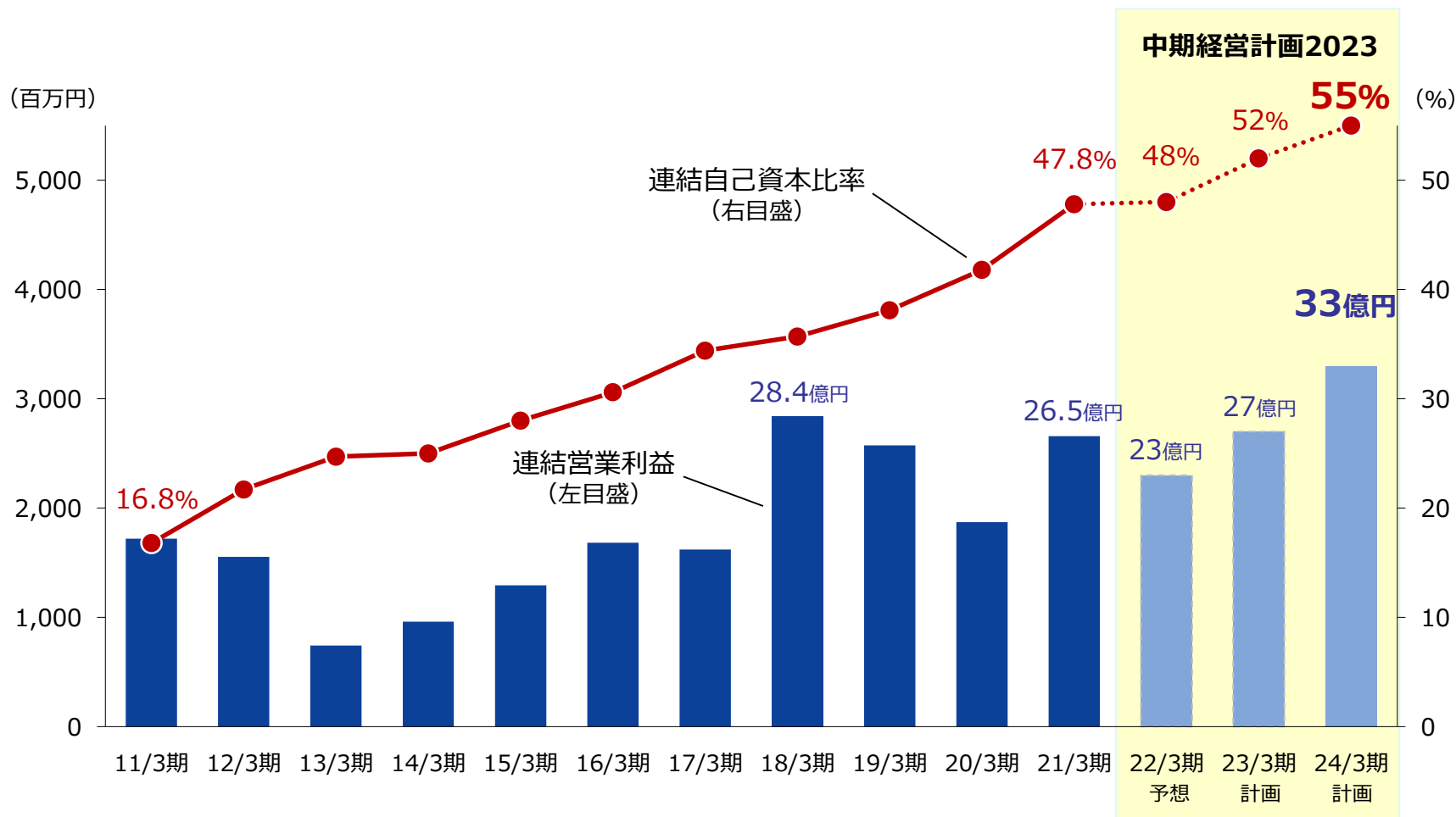
中期経営計画2023の数値目標 1/2

(単位：百万円)

	2021/3期	2022/3期 予想	2023/3期 計画	2024/3期 計画	3ヵ年増減	増減率
売上高	28,978	30,500	33,000	36,000	7,022	24%
化成品事業	21,750	22,500	24,600	27,000	5,250	24%
機械事業	4,409	5,200	5,400	5,700	1,291	29%
電子材料事業	1,706	1,700	1,800	2,100	394	23%
その他の事業	1,112	1,100	1,200	1,200	88	8%
営業利益	2,659	2,300	2,700	3,300	641	24%
化成品事業	2,192	2,050	2,300	2,700	508	23%
機械事業	294	450	500	600	306	104%
電子材料事業	400	150	300	400	0	0%
その他の事業	701	650	700	700	△ 1	△ 0%
全社費用など	△ 930	△ 1,000	△ 1,100	△ 1,100	△ 170	△ 18%
経常利益	2,649	2,300	2,800	3,400	751	28%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,004	1,700	2,000	2,400	396	20%
自己資本比率	47.8%	48.0%	52.0%	55.0%	7.2%	

中期経営計画2023の数値目標 2/2

収益力の向上を図るとともに財務体質の一層の強化を目指す



重点施策①



<リン酸>

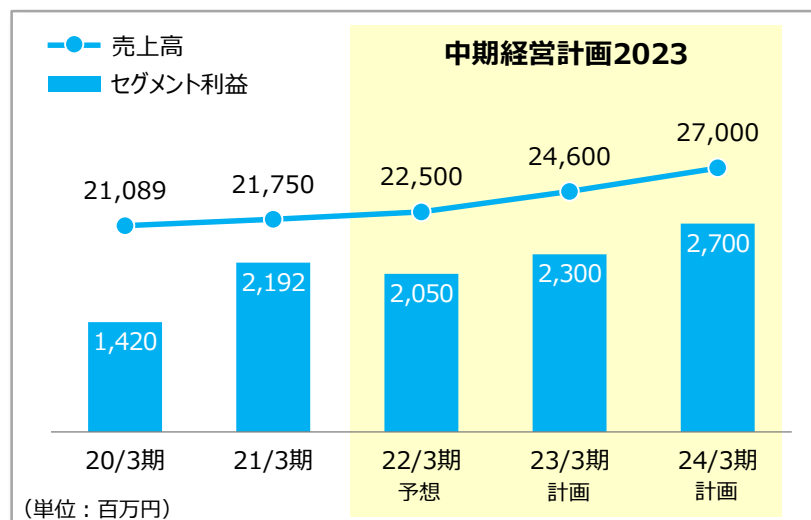


<消臭剤>



<台湾子会社>

化成品事業



■ 5G・IoT・AI 分野需要の着実な取り込み

- ✓ 半導体向け高純度リン酸の安定操業および販売増
- ✓ コンデンサー向け原料増産設備の安定操業と更なる省力化

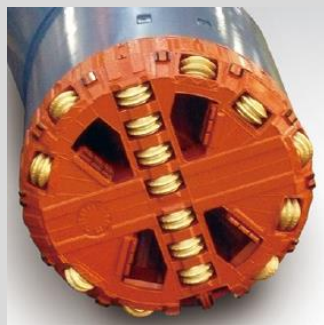
■ グローバル市場への対応強化

- ✓ 台湾子会社 需要拡大への対応（増産投資の実施）
- ✓ 韓国合併会社との連携強化

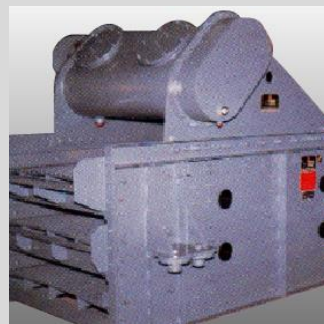
■ ユーザー拡大と高付加価値化

- ✓ 消臭剤の研究開発への注力

重点施策②



＜掘進機＞

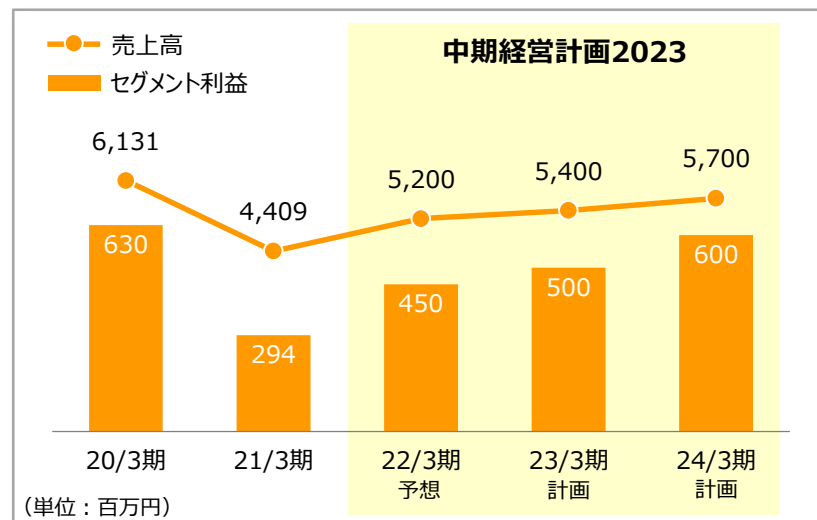


＜選別機＞



＜粉砕機＞

機械事業



■ 既存事業の強化・領域拡大

- ✓ 震災復興関連（中間貯蔵施設、除染関連事業）の更新需要の取り込み
- ✓ プラント設備案件の需要の取り込み

■ グローバル市場への対応強化

- ✓ 海外販売網との関係強化による下水道向け掘進機の新規市場開拓（東南アジア）

■ 新規事業の探索、育成

- ✓ バイオマス熱利用装置の新たな営業展開

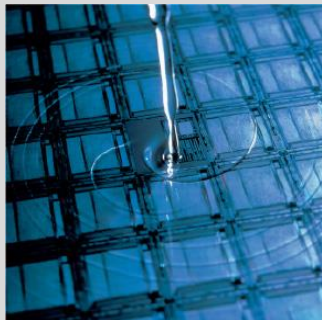
重点施策③



<高純度無機素材>

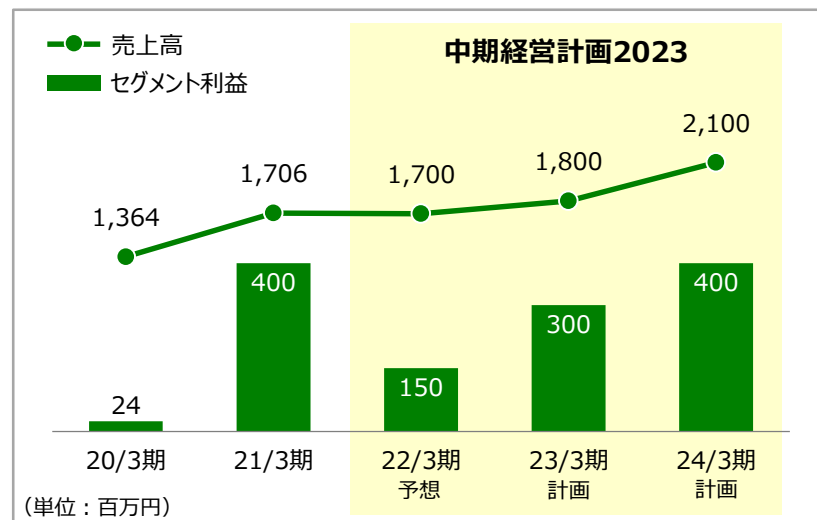


<放射性ヨウ素吸着剤>



<塗布剤>

電子材料事業



■ 既存事業の強化・領域拡大

- ✓ 高純度無機素材の新規需要開拓
- ✓ 販売・生産の調整、工程改善による収益改善

■ グローバル市場への対応強化

- ✓ 高純度無機素材の海外新規需要開拓
- ✓ 放射性ヨウ素吸着剤（A g X）の海外への継続的販売の実現

■ 新規事業の探索、育成

- ✓ 放射性ヨウ素吸着剤などの研究開発による新規事業探索
- ✓ 塗布剤の用途別製品の拡充

セグメント別基本戦略

	既存事業の強化・領域拡大	グローバル市場への対応強化	新規事業の探索・育成
化成品事業	✓ 半導体向け高純度リン酸の安定操業および販売増 ✓ コンデンサー向け原料増産設備の安定操業と更なる省力化	✓ 台湾子会社 需要拡大への対応（増産投資の実施） ✓ 韓国合併会社との連携強化	✓ 消臭剤の研究開発への注力
機械事業	✓ 震災復興関連（中間貯蔵施設、除染関連事業）の更新需要の取り込み ✓ プラント設備案件の需要の取り込み	✓ 海外販売網との関係強化による下水道向け掘進機の新規市場開拓（東南アジア）	✓ バイオマス熱利用装置の新たな営業展開
電子材料事業	✓ 高純度無機素材の新規需要開拓 ✓ 販売・生産の調整、工程改善による収益改善	✓ 高純度無機素材の海外新規需要開拓 ✓ 放射性ヨウ素吸着剤（AgX）の海外への継続的販売の実現	✓ 放射性ヨウ素吸着剤などの研究開発による新規事業探索 ✓ 塗布剤の用途別製品の拡充

E S Gへの取り組み

E S Gへの取り組みによって、持続的かつ安定的な成長を目指す

【重要なE S G課題】

【当社グループの取り組み】

〈環境〉

E

リサイクルビジネス

(資源の循環利用・再生利用)

- ・プリント基板のエッチング液のリサイクル（化成品）
- ・リサイクルプラント設備の販売（機械）
- ・ガリウム、インジウムのリサイクル（電材）
- ・石油精製用触媒のリサイクル（その他）

水環境の保全ビジネス

- ・上下水道や工場排水の水処理凝集剤の販売（化成品）
- ・上下水道の構築に適した掘進機の販売（機械）
- ・大雨災害対策関連プラント設備の販売（機械）
- ・休廃止鉱山の管理（岩手県、宮崎県の休廃止鉱山での抗排水処理、たい積場管理等）

環境負荷の低減ビジネス

- ・バイオマス熱利用関連設備の販売（機械）
- ・震災関連のガレキ処理プラントや中間貯蔵プラント設備販売（機械）
- ・原発の重大事故発生時の放射性ヨウ素吸着剤の販売（電材）
- ・二次電池向け材料の研究開発（電材）

〈社会〉

S

品質管理 安全衛生 社会貢献

- ・化学品・製品の品質と安全性の確保
- ・保安防災・労働安全衛生の向上
- ・社会・地域との共生

〈ガバナンス〉

G

コーポレートガバナンス コンプライアンス

- ・コーポレートガバナンス体制の充実に取り組み
- ・コンプライアンスの徹底

Sustainability

持続的かつ安定的な
成長の実現

トピックス① 設備投資

台湾子会社における生産能力増強投資

台湾連結子会社



会社名 理盛精密科技股份有限公司

(Rasa Technology Taiwan Ltd.)

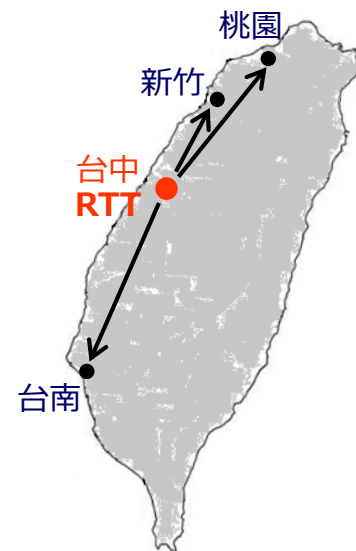
所在地 台中市梧棲區緯二路1號

設立 2003年12月17日

投資目的 半導体向け高純度リン酸増産

投資額 20億円

投資効果 現状の生産能力を約5割増強予定



トピックス② 放射性ヨウ素吸着剤の研究開発 1/2

銀ゼオライトによる放射性物質除去システムの高度化

＜研究開発費 2020年度実績：1.0億円 2021年度計画：1.5億円＞

経済産業省「原子力産業基盤強化事業補助金(注)」に採択（2020年度、2021年度）

(注) 原子力関連機器・サービスの安全性や信頼性向上に資する取り組みを支援するもの

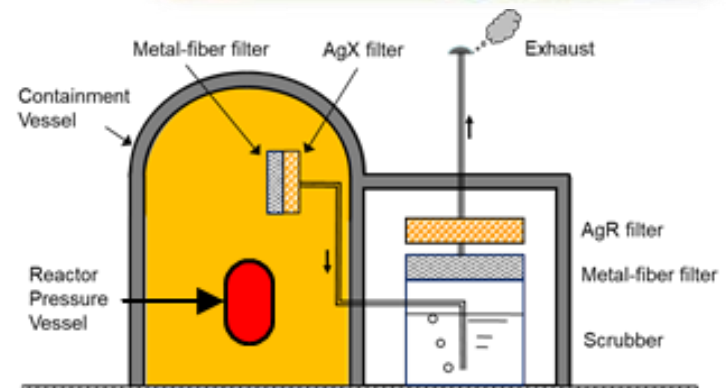
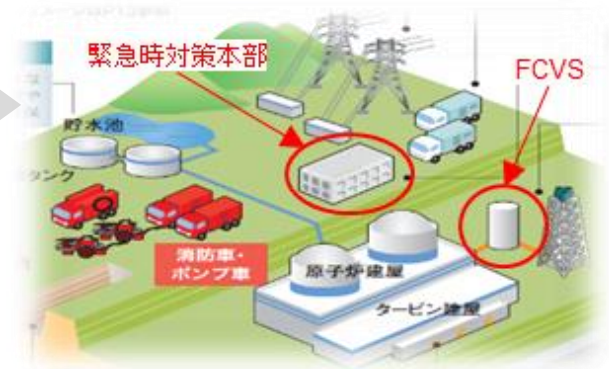
当社・木村化工機株式会社・森村商事株式会社・東京工業大学のコンソーシアムで取り組む

1. フィルターベントシステム（FCVS）

- ✓ 福島第1原発事故以降、放射性物質を吸着して外部に漏らさないフィルターベントシステムの設置が進む
- ✓ 放射性有機ヨウ素の対策には、銀ゼオライト（AgX）フィルターが採用される
- ✓ 当社の技術は、東京電力柏崎刈羽発電所で採用

今後の展開

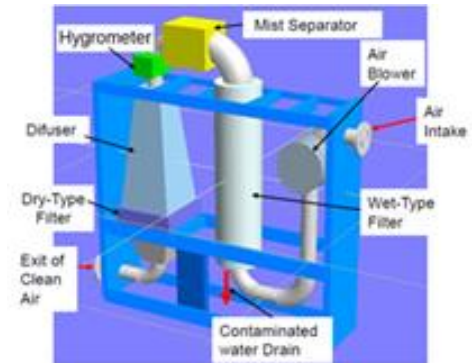
- ・ FCVSで培った技術の国内外へ普及を目指す
- ・ 新たな銀ゼオライトAgRも開発（水素への対応も）



トピックス③ 放射性ヨウ素吸着剤の研究開発 2/2

2. 空気浄化システム

- ✓ FCVS技術を用いて原子力空気浄化システムの高度化（安全性・信頼性の向上）を目指すもの
- ✓ 従来のHEPAフィルターや活性炭に替わり、銀ゼオライト（AgR）技術やメタルファイバー技術、スクラバー技術を用いた原子力の空気浄化システムの開発



モバイル空気浄化システム
(2020年度作成)

3. 希ガス吸着システム

- ✓ 当社が、希ガス用吸着剤XeAの開発に成功（XeA：活性炭の10倍以上の吸着性能）
- ✓ XeAの製品技術を安定的なものとし、システム化することを目指す



本資料に関する注意事項

本資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の数値等に関する記載については、不確実な要素を含んだもののご理解下さい。

－IRに関する問い合わせ窓口－
ラサ工業株式会社 経理部
03-3258-1835